

製薬会社の営業支援ツールとして iPad 普及 円高の影響により予算縮小のプロジェクト増加

株式会社ビーブレイクシステムズ

ビーブレイクシステムズが様々な現場で感じたシステム業界における現在の景気動向を、現場目線で定期的に発信します。

【システム業界全般について】

11月以降のシステム開発の案件数は、既存案件からの引き合いが増加した影響により増加傾向でした。12月以降もシステム開発の案件は多数ありますが、12月から開始される案件の殆どは既存案件から追加要員を募集するもので、新規の案件は所謂「火消し案件」と呼ばれる問題プロジェクトへの増員に関する引き合いが大半を占めているそうです。また、円高の影響を受けやすい企業は設備投資に慎重になっており、それらの企業を取引先に持つ金融会社では、予算の制約を理由に11月、12月末で終了する案件が増えています。しかし多くの場合、プロジェクトを縮小しても、プロジェクト自体は継続していきたいと考えているそうです。一方で、ある企業においてリーマン・ショック以降、予算削減により2年以上凍結していた大型案件について、プロジェクトを再開したという話を聞きました。このように最近の傾向として、ユーザのコスト意識は依然高いものの、企業によっては必要最低限のシステム投資は行いたいという強い意向を感じることがあります。

スマートフォン市場において、12月以降も案件数は増加傾向にあります。横ばい傾向にある Android 案件に対し iPhone や iPad 案件については増加傾向にあるそうです。理由として、スマートフォン端末の普及・浸透状況が大きく影響していると考えられ、Android 携帯についても今後急速に普及が進めば、Android 案件についても増加が見込めるのではないかとみています。また、最近では多忙な医師や医療関係者等と限られた時間内で面談を行わなくてはならない製薬会社の医薬情報担当者の営業・マーケティングツールとして、iPad 対応が進んでいるという話を聞きます。ある製薬メーカーでは、営業支援ツールとして iPad を導入し、効果的な営業を行えるようになったそうです。

【エンジニアについて】

12月以降のエンジニアの単価は、低水準の2割減からの回復とまではいきませんが、やや上昇傾向です。PG（プログラマー）の単価は横ばい、SE（システムエンジニア）の単価はやや上昇傾向にあります。そもそも、エンジニアの単価とは、景気とある程度の連動性があるものだとされていますが、エンジニアの契約が継続的に更新される際は基本的に単価の大幅な改訂は行われません。そのため、リーマン・ショック以降に契約の解除を一度も経験していない、運のよい中小企業規模のシステム開発会社では、景気低迷以前の単価水準で現在も取引を行うことを普通のこととして捉えているそうです。

*Android は、米国 Google Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

*iPhone、iPad は米国および他国の Apple Inc. の登録商標です。

*その他、文中に記載されている会社名、商品名は各社の登録商標または商標です。

■株式会社ビーブレイクシステムズ 会社概要

住所：〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-19-3 五反田第一生命ビル

設立：2002年7月

資本金：6,000万円

代表取締役：白岩次郎

事業内容：統合型基幹業務パッケージ（ERP）「MA-EYES」等のパッケージ販売や、システムの受託開発。

URL：<http://www.bbbreak.co.jp/>

【本レポートに関するお問い合わせ先】

株式会社ビーブレイクシステムズ 担当：岡部、木塚

TEL：03-5487-7855 / FAX：03-5487-7854 / E-MAIL：info@bbbreak.co.jp